

第4回平戸市総合計画 基本構想起草委員会

議 事 録

と き：平成29年4月19日（水）14：30～17：30

ところ：平戸市役所3階中会議室

開催日時	平成 29 年 4 月 19 日（水） 14:30～17:30
開催場所	平戸市役所 3 階中会議室
出席委員 (50 音順、敬称略)	今川亮生、鴨川周二、坂本鏡心、西サチ子、村上則夫 (5 名)
欠席委員 (50 音順、敬称略)	森健司
事務局 (財務部企画財政課)	吉住財務部長、小出企画財政課長、藤山企画統計班長、田中企画統計班主査、山口企画統計班主査、浦川企画統計班主任主事 ※コンサル 2 名
次第 1. 開 会	
2. 財務部長 あいさつ	吉住財務部長
3. 審議会会長 あいさつ	村上会長
4. 議 題 (1) 第 2 次平戸 市総合計画基本構 想骨子案について 委 員 委 員	(プロローグについて、事務局から説明) 最後から 2 行目にある、「さあ、新しい物語の始まりです」は、とても良いと思う。こういう感じで作っていただけたらいいと思った。 資料を頂いた時にまず感じたのは、小さいというのは、手に取りやすいという点ではありがたいが、文字も小さくなってしまい、年配の方は読みづらい。そこで、文字が少しでも大きくなるように文字数を減らしてはどうかと思い、削れそうなところを考えてみた。 まず、4 行目の「エキゾチックな雰囲気が」を削除。6 行目の「行われており、」を「行われ、」に。7 行目の「多くの若者たち」を「多くの若者」に。8 行目の「ポルトガル船が入港し、ポルトガルとの貿易が

	はじまりました」を「ポルトガル船が入港し、貿易もはじまりました」に。9行目の「これを契機に栄えた平戸は」を「これを契機に栄えて」に。「オランダやイギリスをはじめとする」を「オランダやイギリスなど」に。11行目の「このように、諸外国との交易で栄えた平戸や、」を削除し、前段の「国際貿易港となりました。」につなげて、「そして、縄文・弥生時代からの……」と続ける。12行目の「漁師まちである生月により、」を「漁師まちである生月、」とし、次の文章に「地域が1つになり」という表現を加えて、「これら多彩な歴史に富んだ地域が1つになり、平戸市が形成されました」に。下から6行目の「平戸市を訪れた」を削除。 また、「平戸」をはじめ、言葉の重複が多いように感じるので、下から4行目の「宝は代々平戸に暮らす人の」の「宝は」を削除し、4行目後半の「平戸に暮らす」も重複しているので削除。最後の行の「平戸に住むすべての人の」は「このまちに住むすべての人の」としてはどうか。そうすれば、田平、大島、生月、平戸の各地区が1つにまとまって、平戸の未来を描いていくということが表現できるのではないか。
委 員	私も言葉の重複が気になっていたので、今言われたように省略したほうがいいと思う。 詩を最初に持ってきたのはとてもいいと思う。論文的でなく、こういう形で始まると、読む方は関心を持つと思う。
委 員	このように削った結果として、文字が大きくなり、かつ意味が通じなければ意味が無い。4行目の「エキゾチックな雰囲気」については、ポイントになる表現でもあるので、削除していいかどうかご意見を頂きたい。
事務局	レイアウトや構成、ページ数、冊子のサイズ等は変更可能なので、本当に必要な言葉は削る必要はないと思う。なお、冊子は全戸配布を行わず、全戸向けにはダイジェスト版の形で配布する予定。

委 員	そうであれば、「エキゾチック」の部分はそのまま残してもいいかと思う。重複については、先ほどのように削除・修正したほうがすっきりすると思う。
委 員	ページ数の制限はないのか。
事務局	今のところない。必要なものは書き、必要ないものは削るという形で、できるだけ良いものにしたい。
委 員	合併して 10 年以上になるが、それぞれの地域に対する思いはやはりあると思う。そこで、「このまち」といった表現にすれば、平戸も意味するし、俺たちのまちという意味にも取れるので、すんなり受け入れられるのではないかと思う。そして、それらが 1 つになって、最後のところで、1 つの平戸になるという作りにしてはどうかと考え、先ほどのような修正を提案した。
委 員	地域的な上下を感じさせないような表現をするという点にも注意する必要がある。
事務局	委員の言われたように修正し、修正漏れがないか確認していただくという形で進めたい。 (第 1 部について、事務局から説明)
委 員	1 ページの下から 2 行目の「やらんば!」という表現は、他の市町村で使われている方言であり、本来の平戸の言葉では「せにゃ」なので、少し違和感がある。ここは無理に方言にせず、「私がやらなきゃ」のような標準語にするとか、他の表現にするなどしたほうがいいのか。

委 員	地元の方としては違和感があるというのはなるほどと思うが、私は「やらんば」という表現も、力強くいいと思う。
委 員	私も「やらんば」という表現はあちこちで使い古された感じがするので、「やるばい」のほうがいいのではないかと、この委員会でも何回か言ったと思う。
委 員	「やるばい」もすてきだと思う。
委 員	5行目の「大きな夢」という表現について、夢には、小さな夢、素朴な夢など、さまざまな夢があるので、大きい夢にこだわるのはどうかと思う。 また、2行目の「夢は叶っているのでしょうか」は唐突な感じがするので、4行目の「私たちはどう暮らしているのでしょうか？」の後に持っていてはどうか。そのほうが流れとして自然だと思う。 また、このページには「夢」という言葉が多すぎるように感じる。現実を見ることも必要なので、少し変えたほうがいいように思う。例えば、事前配布の資料で言うと、「どんなまちになっているのでしょうか」の後に、「住民の一人ひとりが笑顔で楽しく毎日を過ごしているのでしょうか」など、住民一人ひとりに対する呼び掛けみたいなものを入れるといいのではないか。
委 員	5行目の「大きな夢」を「それぞれの夢」にして、6行目の「それぞれの夢」を「その夢」としてはどうか。
委 員	5行目を「さまざまな夢」にするといいと思う。
委 員	「理想」、という言い方もできると思う。
委 員	平戸には歴史・自然を含め、たくさんの宝がある。中には、今は見え

	ていない宝もあると思う。そういう潜在的な宝について、私は地下水を想像した。つまり、地下水のように絶えず脈々と流れているものがあって、それをそれぞれの夢に応じて発掘しながら、新たな水脈を探りながら、新しいものをつくりだしていくというようなイメージがここで表現できればという思いがある。
事務局	ここは「まちづくり未来図」なので、どんな未来を描くかとか、こういう歴史をつくっていくという方向性を書いて、今言われた宝の再発見については、第2部の設計図のところで、描いた未来に向けて誇りを持って一緒に進んでいくには、そういう宝が必要という形で書いている。以前に、宝に気付いていないところがあるというご意見を頂いていたので、それを受けて第2部にそのことを加えたが、うまい表現が見つからず、今は「知る」という言葉で入れている。
委員	そういう形でもいいと思う。
委員	「夢は叶っているのでしょうか？」は、今の位置にあるほうが、強い印象を与えると思う。
委員	まず平戸のまちをイメージさせて、自分の夢はどう叶っているかという順番にしたほうがいいのではないかな。
委員	それも分かるが、個人あつての平戸であるので、今の並びのほうが、個人の夢が叶っていれば、それが平戸の夢につながっていくということが分かると思う。
委員	最初に市民個人に問うように投げ掛けて、その後にまちや暮らしを考えろという流れのほうが、インパクトが強いと思うので、私はこのままの順番でいいと思う。

委 員	どちらがいいというのは人それぞれだと思うので、私はどちらでもいい。
委 員	先ほど言った、「住民の一人ひとりが笑顔で」という表現を入れることについては、本日配布の資料では、下のほうに、笑顔があるまちといった表現があるので、それでいいと思う。 「夢は叶っているのでしょうか？」の位置については今のままとしたいと思う。「やらんば」については、この後にもつながっていくので、もう少し意見を頂きたいと思う。
委 員	「やらんば」にすると、「あんたがやらんばたい！」みたいなイメージに感じるので、今川委員が言われた、「やるばい」のほうがいいと思う。
委 員	私も、「やるばい」のほうが前に進むよという感じが強くて、いいと思う。
委 員	「…ばい」も聞き飽きているので、標準語にしたほうがいいと思う。方言にする理由が何かあるのか。
事務局	ここを方言にしているのは、ここを強調したいという意図からである。
委 員	「やらなきゃ」では駄目なのか。
委 員	標準語であれば、「やらねば」といった表現になると思う。
委 員	それでもいいと思う。私が言いたいのは、無理に平戸弁を持ってこなくていいのではないかということで、「やらんば」はださく感じる。

委 員	ださくても、インパクトがあったほうがいいと思う。
委 員	私としては、これにインパクトはない。何だこれは、という感じがする。「やらんば」はどこの市町村でも使われており、インパクトはないと思う。
委 員	個人の感覚の違いだと思うが、どのようにまとめたほうが良いか。
委 員	取りあえず、「やるばい」にしておいて、審議会場で今のような議論があったということを報告し、あとの判断は審議会に委ねるということにしてはどうか。
委 員	では、そのような形にしたいと思う。
委 員	3 ページで、「本市は」と書かずに、全て「平戸市は」と書かれていることや、前回のものでは文末が「進める必要があります」などとなっていたのが、「進めます」のように変更されているのは、当事者意識が表れていてとてもいいと思う。
委 員	まさにこの3つの項目に象徴されていると思う。特に、最後に「誇りを持てる」ということを持ってきているのはいいなと思った。
委 員	③の「誇りを持てるまち」の最後に、「みんなで手を取り合い、にぎわいをつくり、誇りを持てるまちを創造します」とあるが、第1回起草委員会から、「磨き合う」というようなキーワードが出ているので、それも入れてほしいと思った。
委 員	このかぎ括弧の中は、①～③をつなげたものなので、それらを使ってさらに磨き上げた平戸を創造しますという書き方にしてはどうか。

事務局	「磨く」については、第２部のところに入れていく。
委員	前回、誇りのところに「シビックプライド」という表現も入れたほうがいいのではないかという意見があったが、平戸には高齢者も多く、そういう方たちにとっては横文字の言葉は分かりにくいのではないか。
事務局	カタカナ語や分かりにくい行政用語については、注釈や用語集などで用語解説を入れる予定としている。
委員	国際化が進む中で、普通に横文字言葉を使われるようになっている語句もある。そういうものについては、時代の流れに即して採用するということでご理解いただきたい。
委員	６～７ページについて、私からお願いが２点ある。 まず、子どもたちの意見の中に「バリアフリー」という言葉が出ていたが、高齢化社会の中で、平戸のまちの中は段差が多い状況なので、子どもたちの意見を大事にして、弱者への配慮をするまちといった項目を入れてほしい。 それと、「あいさつ」という言葉も何人かから出ていた。「平戸に住んでいるみんなが１つになるように、あいさつを気持ち良く行うことが一番だ」と書いている子もいた。確かに、観光地平戸といいながら、地元の人々のあいさつの悪さを感じるのだから、そこは入れてほしい。以上の２点を「暮らし」のところなどに加えていただければありがたい。
事務局	検討する。
委員	８～９ページについては、タイトルに統一性がないので検討することだが、私の意見としては、「……しよう」という、呼び掛ける形で統一してもいいと思うが、（１）の「人こそ宝」については、「人材を育てよう」などとするよりは、今の形で言い切ったほうがいいように

	思う。また、（５）の「まちの経営を工夫」については、「工夫」ではなく、何か他の表現がないだろうかと感じている。
事務局	ここのタイトルについては、２日前に行った部長級の企画委員会でも、統一性を持たせたほうがいいのではないかという指摘があり、事務局で再度検討したが本日お示しするには至らなかった。
委 員	事務局ではどのような案が出ているのか。
事務局	「……しよう」という形のところを「高める」「深める」とし、言い切る形でそろえるとか、（１）の「人こそ宝」は「人を磨く」にしてはどうかといった意見が出ていた。
委 員	ここで意見が出なければ、このままの形で審議会に提案することになるのか。
事務局	そのように考えている。
委 員	私は、「……しよう」という形で統一して、「磨こう」「つくろう」「工夫しよう」にしたらいいと思う。
委 員	方向性としては、やわらかい表現でという考えなのか。それとも、そこは別に定まっていないのか。
事務局	本文では全体的に「……します」のように言い切る形にしているので、ここのタイトルも「深める」「高める」のような形がいいのではないかと考えたが、一方で、それもどうかという思いもあり、案としてお示しするには至らなかった。
委 員	本文では「……します」と方針を言い切って、そのためにこのように

	しようということで、タイトルは「……しよう」という形にしているの だろうと、私は理解している。
委 員	「……しよう」という呼び掛けではなく、意思を表示する形で、「深 める」「高める」などとしたほうがいいのではないか。 (5)の「工夫」という文言は、例えば、市民が参画するというよう な表現にしてはどうか。市民と行政の協働というところは市長も鮮明に 出されていたと思う。
委 員	タイトルは「……しよう」という形で示して、その施策として「…… します」という表現をするという形がいいと思う。
委 員	確かに、呼び掛ける形はやわらかくなると思う。個人の感性の問題 で、どちらの表現にしても大きな違いはないので、差し障りはないと思 う。
事務局	今の議論を踏まえて、どちらに統一するか事務局で検討したい。
委 員	タイトルは「……しよう」という形にして、中身は「……します」と いう形がいいと思う。内容については異存ない。
委 員	8～9ページの内容の部分は、このままということにしたいと思う。 (第2部について、事務局から説明)
委 員	ここは「宝」を意識している。
事務局	「知る」という表現をここに入れている。
委 員	宝を宝と思ってない市民も多い。それに気付かないと進まないだろう

	ということで、「知る」という表現を入れてもらった。 「平戸」と「平戸市」の混在について、正確には平戸市だが、「平戸」でも問題はないと思う。
事務局	行政的には「平戸市」だが、ストーリー性を持った物語という意味で、プロローグでは「平戸」で統一した。
委 員	11 ページも、「平戸」でいいのではないかなと思う。
委 員	下から4行目に「まちづくり未来図」、下から2行目に「まちづくり設計図」とあるが、意図的に使い分けているのか。
事務局	意図的に入れている。
委 員	前の部分からつながっているということだと思う。
委 員	「まちづくり未来図」は、かぎ括弧は要らないと思う。
委 員	かぎ括弧と「まちづくり」を削除して、下から4行目は「私たちが描いた未来図を」、下から2行目は「ここに描く設計図を」でいいのではないかな。
事務局	「平戸」が多過ぎるので、5行目の「平戸の文化であり」と6行目の「その平戸市の宝を」の「平戸を」を削除したいと思う。
委 員	6行目の「守り残すために」という部分に違和感がある。「守るとともに」としてはどうか。
委 員	守って残すのだから、これでいいと思う。

委 員	「残すために」では残すことが目的のようになっている。「守り残すとともに」などとしたほうが、その後の文章とのつながりがいい。
委 員	「守り残すために」がいいと思う。
委 員	下から4行目の「まちづくり未来図」と下から2行目の「まちづくり設計図」について、かぎ括弧と「まちづくり」を削除してはどうかという意見は、下から2行目のほうは、このページのタイトルが「みんなで考える「まちづくり設計図」」なので、それを確認するという意味で、このままでいいのではないかと思う。
事務局	6行目の「守り残すために」については、「守り残しながら」としてはどうか。
委 員	知って、磨いて、輝かせて守り残すのだから、守り残すことに力点を置くべきではないか。
委 員	ここは未来図の話なので、発展させるほうに力点が置かれていると思う。
委 員	残すために発展させるというふうに理解している。
委 員	「守り残すとともに、それを知り、磨き……」という形のほうが、発展的な表現になると思う。
事務局	一番上のサブタイトルが「旅立ちの準備」なので、発展的な表現にしたいと思う。 この「旅立ちの準備」というサブタイトルについて、企画委員会の中で、「響きはいいけれども、どこに旅立つのか。何の準備なのか」といった意見があった。10 ページにも「平戸市の今と、これからつくる未

	来」というサブタイトルがあるので、11 ページのサブタイトルは削除してもいいのではないかという意見も出た。
委 員	「準備」を別の言葉に変えたいのであれば、「旅立ちのとき」などとしてはどうか。
委 員	「旅立ち」については、希望を抱く言葉で、良いと思う。
委 員	この設計図が未来のための準備という意味だと思うが、しっくりこない。
委 員	「旅立ちの今」ではどうか。
委 員	「旅立ち」という言葉が違うと思う。「旅立ち」を使わないで、「未来の準備」としてはどうか。
コンサル	旅立ちの前段階で、まず現状を知り、宝を見つめ直すということで「準備」とした。第3部の冒頭にも同様の文章が入ると思うので、そこを「旅立ちのとき」としてはどうかと考えた。
委 員	「旅立ち」というと、他の所に行くような感じがするので合わない。
委 員	未来への旅立ちという意味で使われているのだと思う。
委 員	市政を未来へ旅立たせるとは、あまり言わないと思う。
委 員	プロローグから始まって、ドラマチックな表現で流れているので、こういう夢のある表現は良いと思う。
事務局	1 ページの、第1部のほうのサブタイトルを「針路を定める」として

	いるので、その流れで、第2部では「旅立ち」という言葉を使った。
委 員	ぼかした表現のほうがよければ、「未来に向かって」とか「明日に向かって」などでもいいかと思う。
事務局	審議会にはこのまま示して、現状を知ることと、設計図を描いて未来をつくる準備をここですするという意味であるという説明をするという形にしたいと思う。
委 員	先ほど、下から4行目の「まちづくり未来図」のかぎ括弧を取ることにしたが、第1部のタイトルなので、ここもかぎ括弧付きで書いたほうがいいのではないか。
委 員	ここは課題として残す形で進めたい。
委 員	18 ページについては、写真を載せるので、橋の色などの説明は削除して、説明文を短くし、文字を大きくしたほうがいいのではないか。 他にも載せるべきものがあるという意見もあるかと思うが、審議会にお任せする形にしたい。 (一同「異議なし」)
事務局	12～15 ページについて、年号が変わるかもしれないので和暦と西暦を併記している。「平戸市プロフィール」を先に持ってくることも検討している。 (意見なし)
委 員	22 ページで、基本プロジェクトを5つにした点について、私はこれでいいと思う。

委 員	22 ページの、第 3 章のタイトルの「みんなでやらんばプロジェクト」について、1 ページのところは「やるばい」に変わったが、ここは「やらんば」のままでいいのか。
委 員	「やるばい」に統一すべき。
委 員	そのようにしたい。 23 ページ以降については作成途中ということで引き続き事務局で作成。
委 員	1 ページの下から 2 行目の「やらんば」は、「やるばい」に変えるのか。22 ページのタイトルも「みんなでやるばいプロジェクト」に変えるのか。
事務局	先ほどの協議で、どちらも「やるばい」に変えて、審議会に判断を委ねる。 (総合計画の名称とキャッチフレーズについて、事務局から説明)
委 員	各自 3 つずつ選んでいただき、得票の多いものから 3 つを候補として、審議会にかけたい。
委 員	審議会には、絞った 3 つ以外の案も見せるのか。
委 員	絞った 3 つの案をお示しする。 (キャッチフレーズは、(9) (24) (30) の 3 つを提案で決定)
委 員	総合計画名称の (1) は「創生プラン」となっているが、今回の計画

	は第2次になるので、「創生」ではなく「再生」のほうがふさわしいのではないか。
委 員	今、国も地方創生と言っている。時代の流れとして創生という言葉で問題ないのでは。
事務局	「再生」は、災害で壊れてしまったものを取り戻すとか、昔ながらのものを先祖返りのような形で作り上げていくというような意味もある。 「創生」は、現状や課題を踏まえて、新たに地域社会を作り上げていくという意味で、一般的に使われている。
委 員	2票だった（6）と（12）からどちらかを選ばなければならない。
委 員	（12）は、「ベクトル」という言葉が一般の人には分かりにくい。計画の名称なので長くないほうがいい。 （総合計画の名称は、（1）（6）（11）の3つを提案で決定）
事務局	（1）について、「（H I T O）」という部分について、平戸は1つなのでこだわらなくていいという意見もあったが、このまま入れてよいか。
委 員	何らかの形で残したいという意見もあった。
事務局	こだわらなくていいというご意見を踏まえ、本文の中からは削除したが、名称についてはどうか。
委 員	入れておくほうがいい。
委 員	異論がなければ、このままでいい。

事務局 (2)今後のスケジュールについて 事務局	このままにして、審議会の中で意見を頂く。 (一同「異議なし」) 次第の「議事」の(2)にあるとおり、来週の4月26日に審議会を行う。 また、ワークショップを行う。詳細については審議会で説明する。 「広報ひらど」の次の1日の号で、総合計画の特集を4ページにわたって掲載する予定。 会議終了
---	---